



# カンボジアの教員養成系大学生の 主観的健康感・健康安全行動・ヘルスリテラシー ～性別、経済状況による差の検討～

○ 上野真理恵<sup>1,2,3)</sup>, 増子夕夏<sup>2)</sup>, Ly Kalyan<sup>2)</sup>, Thay Sokheng<sup>2)</sup>, Say Somaly<sup>2)</sup>, 朝倉隆司<sup>1,2)</sup>

<sup>1)</sup>東京学芸大学学務部国際課, <sup>2)</sup>カンボジア学校保健サービス創成事業, <sup>3)</sup>東京学芸大学大学院

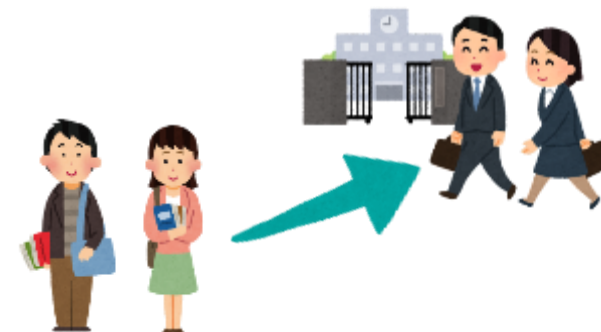
# 背景

- カンボジアでは、1970年代後半から内戦が勃発
- 教育施設の破壊、書物の焼却
- 当時の教員の75%、大学生の96%が虐殺(Luis,et al., 2008)
- 教育の基盤が崩壊し、今なおカンボジアの教育の発展に悪影響



➡ 将来の教育を担う健康的な若者を育くむ必要

- カンボジアでは、2018年に国内で初めて、4年制の教員養成大学が2校設立
- 卒業生は、ほぼ全員が小中学校の教員となり、学校現場での活躍が求められている



➡ 教員になる前段階にあたる大学生の心身の健康の保持増進は、重要な課題

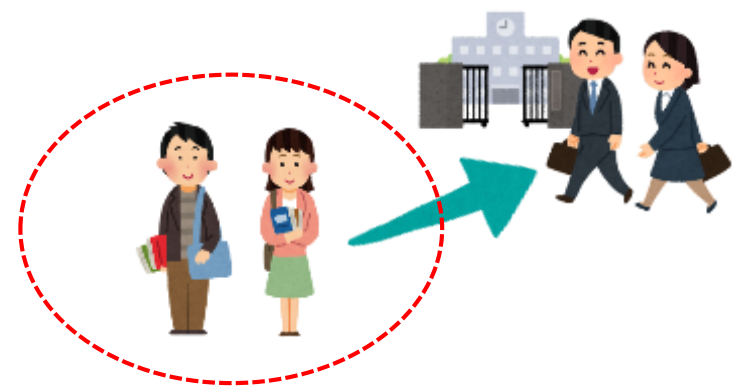
# 背景

- カンボジアの大学生の健康に関する先行研究

- 中等度の抑うつ傾向がみられる学生 (Ngin, et al., 2018)

- 不規則な食習慣のある学生 (Sok, et al., 2020)

➡ 大学生、特に教員養成系大学生の一般的な健康状況や、健康に生きていくために重要なヘルスリテラシーについて、十分に明らかにされていない（基礎的な資料の蓄積が必要）



# 目的

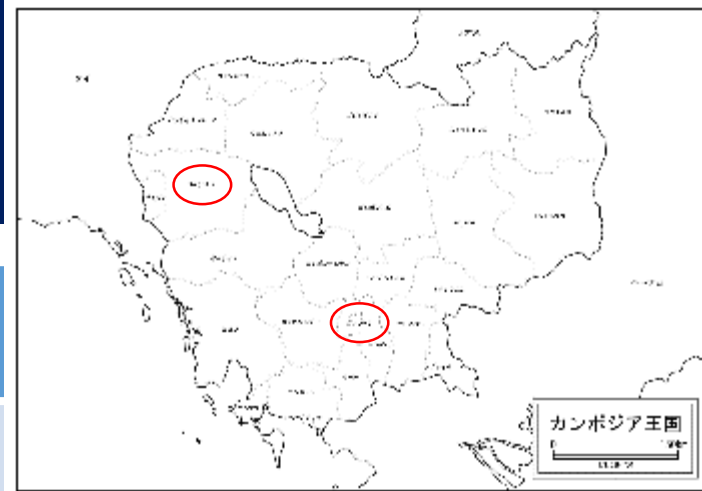
- カンボジアの教員養成系大学生の主観的健康感、健康安全行動、ヘルスリテラシーの実態を明らかにし、性別と経済状況による差を検討する
- その上で、教員養成大学において求められる支援について示唆を得る



# 方法

## 無記名自記式質問紙調査

時期	2022年5月
対象	首都プノンペンと地方都市バットンバンに位置する教員養成大学の4年生(計305名)
調査内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・基本属性(性別・社会経済状況)</li><li>・主観的健康感、生活満足度</li><li>・健康安全行動:過去一か月の朝食欠食やファストフードの摂取頻度、飲酒・喫煙の頻度等</li><li>・ヘルスリテラシー:検索する健康情報の内容</li></ul> 健康に関する情報をネットで入手・理解・評価・活用できる能力(探している情報をネット上で入手することができる「まったくできない・0~毎回入手することができる・4」)
分析	性差と経済状況差の検討:対応のないt検定 (経済状況低群:「とても悪い~悪い」 経済状況高群:「ふつう~良い」)



※本発表のデータ:東京学芸大学の「カンボジア学校保健事業」における調査(管理番号:555)

# 結果・考察

## ①対象者の属性 (経済状況の自己評価)

●経済状況が「とても悪い」または「悪い」と回答した学生は、38.3%

●経済状況の自己評価の性差  
女子学生の方が有意に高い  
( $p < .001$ )

⇒女子が大学に進学できる家庭は、  
経済的に余裕がある可能性。

項目	カテゴリー	n	%
年齢	20	7	2.4
	21	46	15.9
	22	99	34.1
	23	52	17.9
	24	35	12.1
	25歳以上	51	17.6
性別	男子	102	35.2
	女子	188	64.8
居住形態	一人暮らし	5	1.7
	一人暮らし以外	285	98.3
経済状況の自己評価	とても悪い	27	9.3
	悪い	84	29.0
	普通	166	57.2
	良い	12	4.1
	とても良い	0	0.0
	無回答	1	0.3

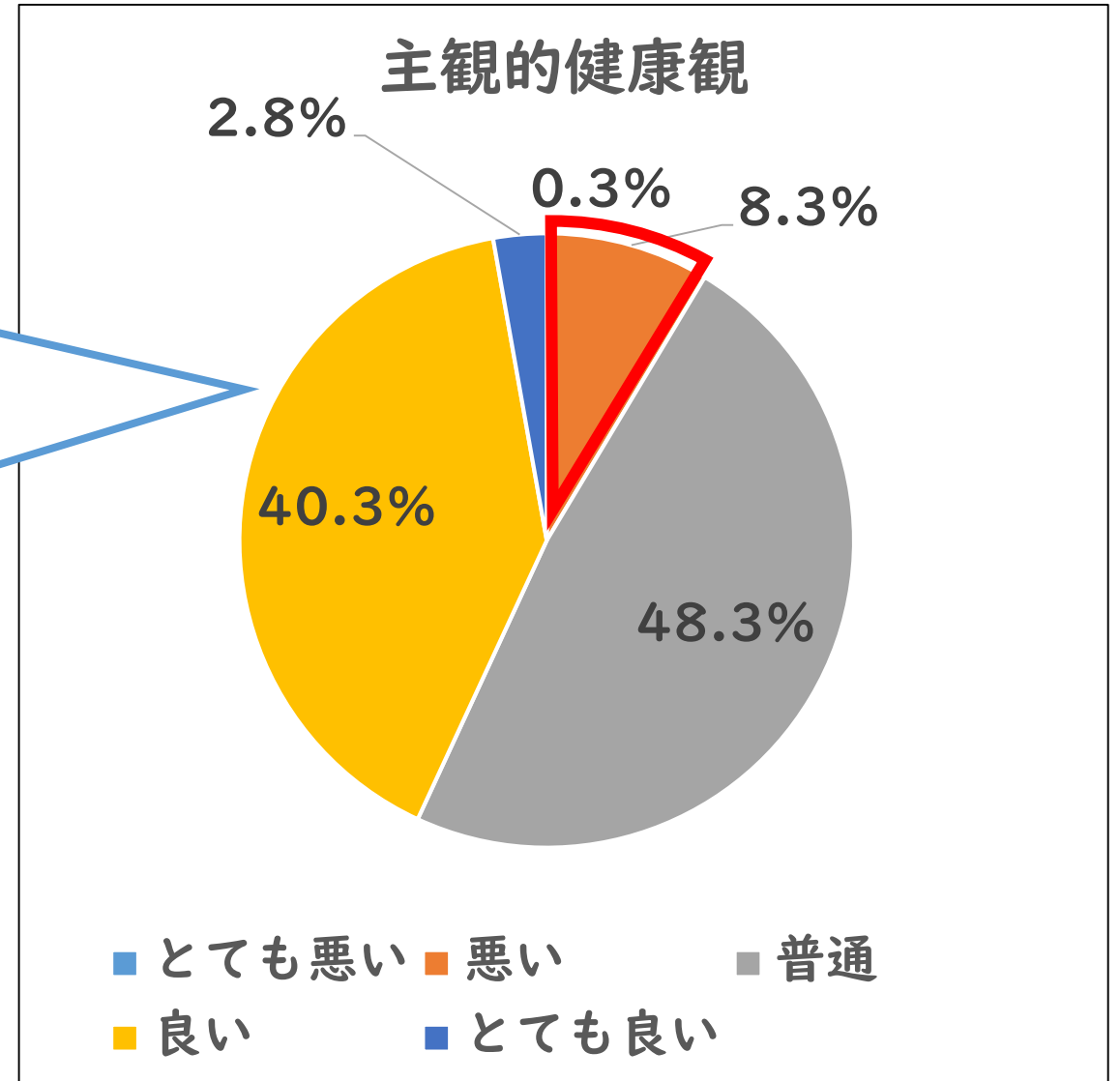
# 結果・考察

## ②主観的健康観

●自身の健康状態が「とても悪い」または「悪い」と回答した学生は、8.6%

●自身の健康状態が「良い」、「とても良い」と回答した学生は、43.1%

●性別・経済状況による有意差なし





# 結果・考察

## ③飲酒・喫煙



過去1ヶ月のうち、

●飲酒習慣がある学生は、12.1%

●喫煙した学生は、1.7%

●男子学生の飲酒の頻度が有意に高い  
( $p < .001$ )

●経済状況による有意差なし

⇒喫煙率は、教育歴の高さや、周囲の喫煙  
状況が影響(角田, 2012)

対象者は、カンボジア国内において教育歴  
が高く、かつ、同級生に喫煙者が少ないこと  
等が喫煙率の低さに関連している可能性。

## ④ヘルスリテラシー

●インターネット上で、知りたい健康情報を入手できる頻度  
女子学生が有意に高い( $p=0.027$ )

検索する情報の内容	n	%*
生活習慣	138	67.3
精神的な健康(精神疾患)	112	54.6
感染症の予防	111	54.1
身体的な健康(病気)	105	51.2
病気の症状	79	38.5



\*過去半年間に健康情報をネット上で検索した学生205名に対する割合

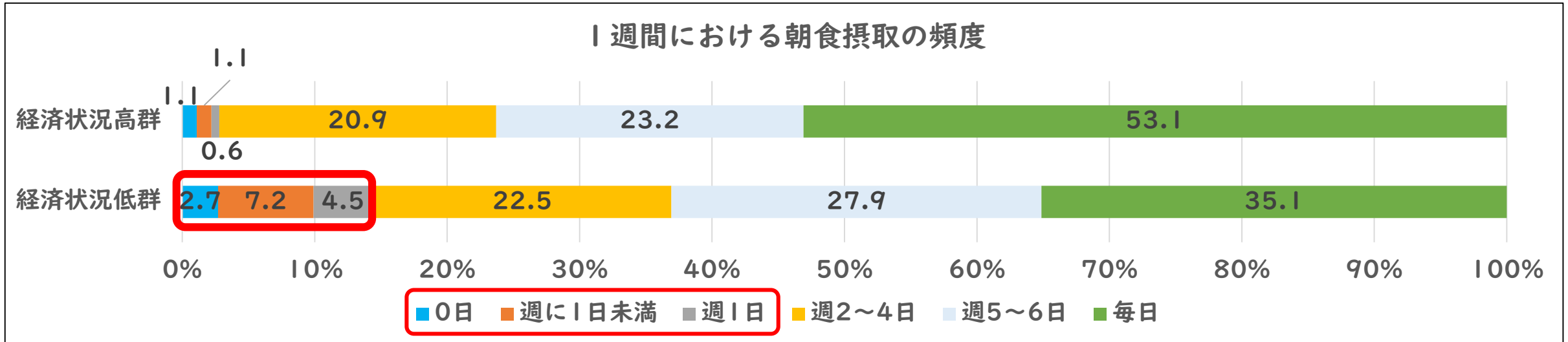
⇒カンボジアにおける死因の64%が非感染性疾患(WHO, 2019)

⇒メンタルヘルスの課題がある一方で、専門的支援の不足、  
精神疾患への差別・偏見があり、精神的不調を抱えている学  
生が、ネット上での検索に至ったと推察。



# 結果・考察

## ⑤朝食摂取の頻度

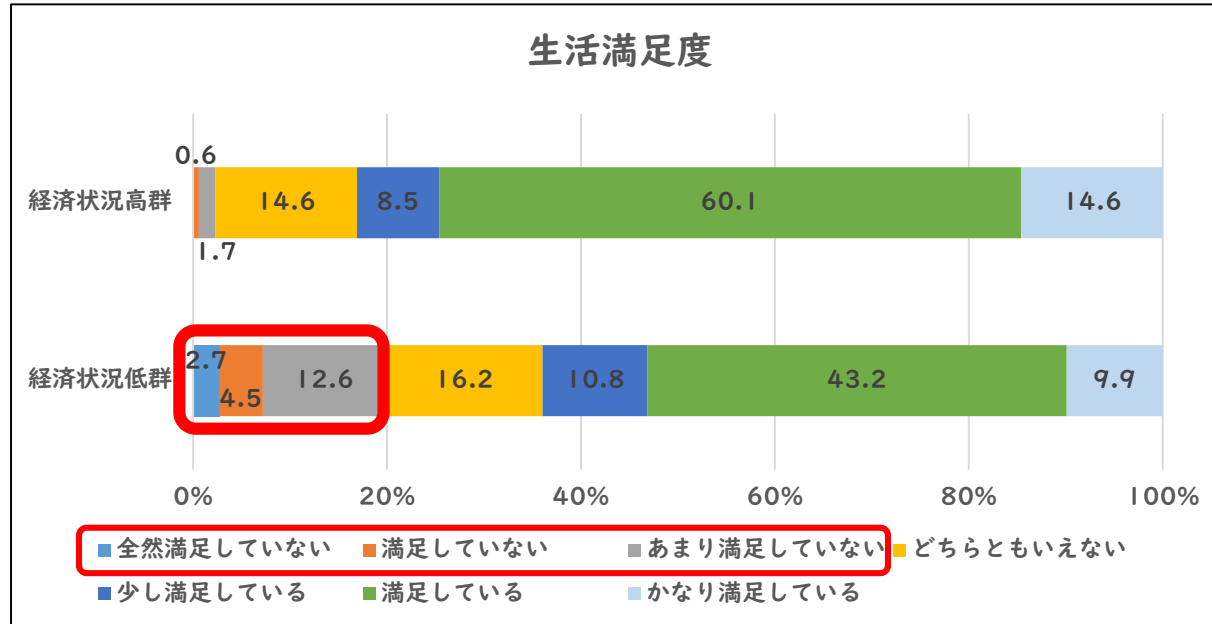


●経済状況低群で朝食を摂取する頻度が有意に低い ( $p < .001$ )

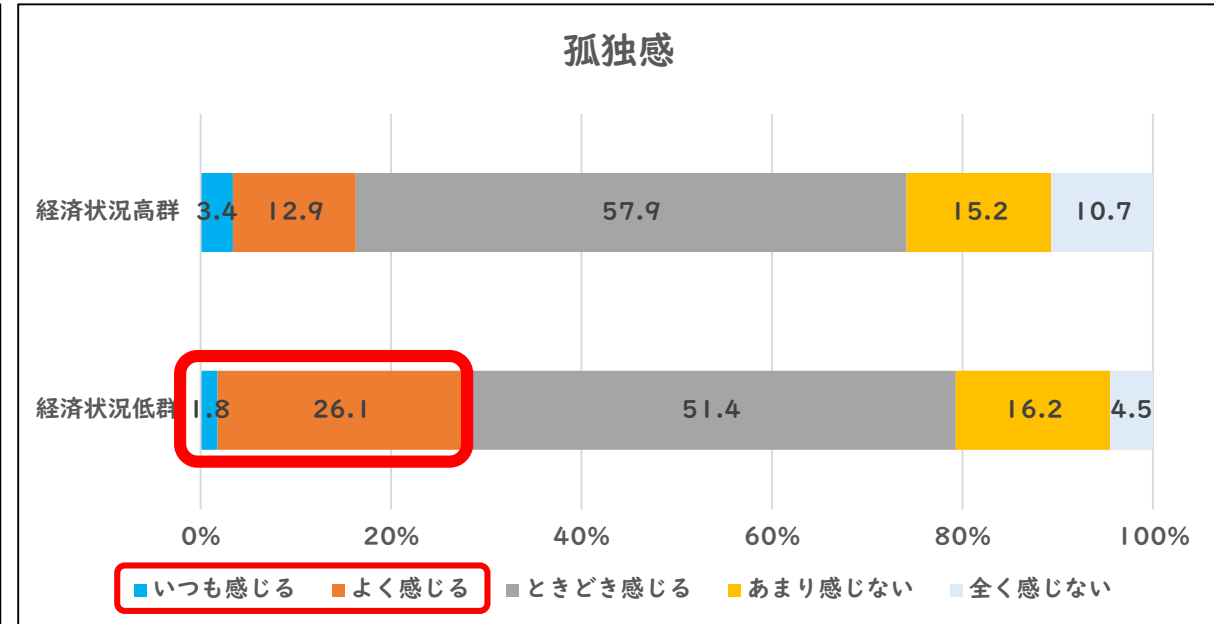
⇒日本の大学生対象の調査:経済的に困窮している学生は、食料品の購入を控える傾向(逸見, 2022)  
カンボジアは、朝食を外でとることも多く、貧困が欠食の要因のひとつになっている可能性。

# 結果・考察

## ⑥生活満足度



## ⑦孤独感

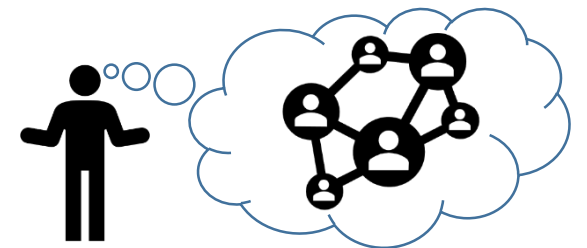


●経済状況低群で生活満足度が有意に低い( $p<.001$ )・孤独感が有意に高い( $p<.001$ )

⇒「お金があれば首都の生活は楽しい」という学生の声。経済的に厳しい環境にある学生は、余暇を楽しむ時間が少ない可能性。しかし、教員養成大学では学費全額支給のため、学生の生活状況を詳細に調査していく必要がある。

# まとめ・今後の課題

- 本研究の大学生の約4割が、自身の健康状態を良好と評価、飲酒・喫煙習慣のある者の割合は少ない傾向。
- しかしながら、経済状況の自己評価が低い学生は、朝食欠食の頻度が高い、生活満足度が低い、孤独感が有意に高い等、貧困が学生の健康に関連している。
- 今後は、経済的に困難を抱える学生の生活状況や、メンタルヘルスの実態を明らかにしながら、貧困世帯の学生支援の在り方を考えていく必要がある。
- さらに、孤独感を抱える学生が、周囲とのどのような援助的な人間関係を築いているのか、カンボジアの社会・文化的背景を考慮した調査が求められる。





ご清聴ありがとうございました



## 参考文献

- 1) Luis Benveniste, Jeffery Marshall and M. Caridad Araujo. Teaching in Cambodia. 2008. World Bank.
- 2) Say Sok, Khuondyla Pal, Sovannary Tuot, et al., Health Brhaviors among Male and Female University Students in Cambodia: A Cross-Sectional Survey. 2020. Journal of Environmental and Public Health.
- 3) Chanrith Ngin, Khuondyla Pal, Sovannary Tuot, et al., Social and behavioural factors associated with depressive symptoms among university students in Cambodia: a cross-sectional study. 2018. Mental Health Research. Vol 8, issue 9.
- 4) 角田 英恵, 桂 敏樹, 星野 明子, 他. 男子大学生の喫煙に関連する要因 : 喫煙者と非喫煙者の比較から. 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻紀要 : 健康科学 : health science 2012, 7: 37-42
- 5) WHO. Prevention and control of noncommunicable diseases in Cambodia The case for investment. 2019.
- 6) 逸見 幾代, 木村 留美, 西村 栄恵, 他. 大学生の相対的貧困と社会経済状況、食生活・生活状況に関する研究. 日本食育学会誌. 2022 年 16 巻 1 号 p. 29-41